向陽新聞
高知市塩屋崎町1-1-10
土佐中・高校新聞部
編集人　中沢仁志
発行人　市吉健一郎
印刷　高知印刷

写真
TEL (72)6758
大丸東入口前
タカハシ

生徒会活動の推進の為に

執行部への関心望む

あがらぬ成果へ

各部担当者の反省

前期執行部がスタートしてからもう三ケ月が過ぎた。この執行部は、向陽祭を毎年開催する運動や、運動会の準備などに、努力してきたが、その成果はあまりでていない。執行部が今のままのようだと、今後の生徒会活動に悪影響が及ぶ恐れがあるので、執行部の各部担当者に今までの反省、二学期に残された任期に何をしたいかなどを書いてもらつた。この文を読んで生徒各位に少しでも執行部への関心を高めていただきたい。

まず、執行部員を紹介する。

会　長・北代　晋也・二S
副会長・大石　司・二K
　　安岡　正彦・二N
書　記・中西志保美・二N
　　杉本　園美・二N
会　計・窪田　薫子・二K
広報担当・岩崎　定之・二K
美化担当・金子　直之・二S
HR担当・金子　利己・二H
各部担当・森沢　恵司・二T
スポーツデー担当・
　　高石　哲・二S

前列　右から、金子(利)、大石、北代、安岡、森沢
後列　窪田、杉本、中西、岩崎、高石、金子(直)

会　長

一月遅れた発足もあり、前任者からの引き継ぎ、向陽祭の運動と、一学期は執行部の雰囲気も落ち着かないまま終わってしまいました。本来の執行部の仕事はほとんど何もできないまま夏休みを迎えますが、二学期からはまともな仕事ができそうです。自転車置場の整備、映画の総見、運動会、選挙とやらねばならない仕事は山ほどあります。部員一同、残りの任期を精一杯努力していくつもりです。

美化の抱負

去年までの美化小委員会は、有名無実でありました。その原因を考えてみますと、美化という漠然とした名のために、いったい何をやればいいのが具体的にわからなかったためだと思います。

そこで今年は、まず手近なところから手をつけようと思います。その手始めとしてトイレ掃除を徹底させるため、美化小委員とクラスから選ばれた数人とで、専門グループを作ります。九月からは、このグループをフル回転させて美化にあたっていきたいと思います。

その他としては、自転車置場が乱雑になっていますので美化小委員の手で整頓させるなど、できるだけ積極的に行動したいと思います。

書記・会計

私達の仕事は地味なものですが、執行部の運営上欠かせないものです。今まで余り仕事はしていませんが、残ったわずかの期間、執行部の裏方としてがんばって行きたいと思います。

ホームルーム担当

ホームルームの時間は今、スポーツをするためだけに使われています。しかし、ホームルームは、クラスの和を高めるのが目的なのだからスポーツだけでなく他の事(討論会など)も必要だと思います。そのため二学期に一度ホームルーム委員会を開くつもりです。

スポーツデー担当

今年の前期は時期を逸してしまったというか、クラスマッチに日をとられて一学期は何もできませんでしたが、二学期のために計画だけは立てています。九月は運動会があるため、僕の任期中に実行できるかどうかは判りません。後期の人はよろしくお願いします。

高校生の為の学力増進講演会

新制度は本県に有利

将来はオーバードクターか

去る四月十四日、高知市本町の文教会館で、第二十七回学生図書まつりの一環として「高校生のための学力増進講演会」が開かれた。

この講演会は高知県の高校生の進路決定や通常の学習に少しでも役だってもらおうと、高知新聞社が行なったもので、当日、会場には県内の熱心な高校生、先生方が早くから集まり、文教会館5階ホールはほぼ満員となった。講師は高知大学学長の山岡亮一先生と、高知医科大学副学長の森本正紀先生であった。

まず「新制度入試と新しい大学のあり方」というテーマで山岡先生の講演があった。

「新制度は高知には良かったようです。高知大学入学の県内生の率が昨年11%から今年度は24%と倍増しました。しかし、全国的にみてみると、東大・京大などは別として地方大学ではその県内生のパーセンテージがもっと高いです。例えば長崎大学は60%が県内生だし、その他の大学も40～50%は県内生が占めています。したがって高知大学では来年度の目標はとりあえず、30%にしています。もう一つ、がんばってほしいですね。

次に、二次試験、特に小論文について話します。本学では人文、経済両学部で小論文を行ないましたが、この小論文というのは採点の方法に難しいところがあります。というのは、いかに客観的に点をつけられるかということですが、本学では採点者を八名ぐらい置き、受験生の書いた原稿を回しながら五〇〇名分、採点しました。これで徹夜までしたのですが、こんなに苦労しても、二次試験の配点が一次の千点に対して、わずか四〇〇点ですので空しいような感じもしました。最近、文章を書くことが大学生の必須条件となっていますので、来年、再来年はもっと小論文が増えるのではないかと思います。世界中どこでも文章を書くのは難しいことですが、自分の意志を国語で表現する力は大学入試のためでなしに、必要でしょう。今回の受験生の論文を見ると、誤字も多く、読み直しをしない人が多いが、これは無責任なことで、一回ではたいていどこかにミスはあるものなので、ぜひ読み直して欲しいです。

また、試験とは話がそれますが、自分の志望校を決める際には絶対に好きなところにすることです。一生悩むことになります。楽しんで食っていくのは難しいですが、いやなことで食うのはやめてもらいたい。それから、経済的なことでも、目先だけにとらわれず先を見て、志望校を選んで欲しいです。」

次に「今年の医科大学入試を顧みて」という題で森本先生の腹をさすりながらのユーモアな話があった。

「医科大学は定員百名ですが、昨年、出来た時には県内生は10%を超えまい、とか十三、四名は入るという見通しがあったところ、実際は十七名、それに補欠入学も含めると二十名が県内生でした。今年は入試改革で三十名ぐらいに予想していたのですが結果は四十六名でした。

入学総数は百六名(百番が七人いた。定員は一割までは増やしてもよい)でしたが、その内訳を説明しますと、高知県生46名、岡山県生9名、愛媛県8名となっています。一次試験で九百点以上取った県内生は3人で、上端―下端は二百点でした。

その他の特徴は浪人が多くて、全体の三分の二を占めています。十浪なんていう人もいましたが、三浪以上になるとあきらめた方がいいと思います。当初と考え方が変わるからです。

今年の話はこれくらいにして、これからのことを話しましょう。医者というものは人口十万人に対して、百五十名必要だといわれています。国も県もそれに達成しようと計画しています。高知県では現在、十万人に対し、百五名しかいません。全国的にもまだ医者数は少いのです。だから医者はもうかっているのですが、国の見通しによると、昭和五十九年度、今から五年後には目標に達成し、その後は、オーバードクターとなり、それほど金にならない商売になると考えられます。ヤングドクターは、交代制で、いわゆる僻地、無医地区に行き、そこで数年医療活動をしてから、都市に戻って来るという事になるかもしれません。その後は緊急医療対策、夜中の仕事、台風、地震等、時の仕事などが義務づけられるでしょう。オーバードクター後は医の倫理ということが厳しくなるかもしれません。」

なお、本校の今年度の主要大学合格者数は別表のとおり。

主張

正確な日本の周知が

東京サミットに思う

日本が初めて世界外交のひのき舞台で主人役を務めた先進国首脳会議(東京サミット)が無事に終了した。大平首相を始めとする関係各位の苦労は計り知れないものだったと思う。

今回は別名〝石油サミット〟と言われるように中心議題は〝石油〟であったが、報道によると、各国首脳とも、自国への石油割当量の多量確保に回り〝石油割当て会議〟になってしまい、貴重な意見交換の場であるにもかかわらず、少しも討論がなかったそうだ。また、政治上で話されたのが〝難民〟と〝ハイジャック〟の二つであった。あれだけ連日サミット、サミットと騒いでおきながら収穫がこれだけだと、ある評論家が言った「サミットは結局お祭り。」と思いたくなってくる。

また、今回のサミットで、大問題になったことに、過剰警備がある。都内の交通規制などが主であるが、カーター大統領が伊豆の下田に行く時、大磯町のヘリポートに、自衛隊のライフル部隊が配置されていたのには驚かされた。確かに、日本で何か起こって、国際問題に発展するのを警視総監は恐れていたのであろうが、外国人記者団にまで不評をかうほどにしなくてもよいだろう。

もう一つ、議場になった迎賓館だが、各国首脳は、どんな目でこれを見ただろうか。「ミニ・ベルサイユ宮殿だ。日本の文化は、しょせん、模倣の文化だ。」ぐらいに思った人も少なくなかっただろう。

そこで提案。どうせ公式の会見、情報も少なかったのだから、いっその事、秘密会議にしてしまった方がよかったのではないか。どこか無人島に各国首脳を百人ほど置いて関係者以外立入禁止にして、一週間位ぶっ続けで討論させたらどうだろう。そうすれば、国民は、自由に車を走らせられるし、警視総監も頭を痛める必要もなくなるのだが。

今回のサミットに、カーター大統領が、夫人と令嬢を伴って来日した。新聞によると、「お見事、家族外交」「小さな外交使節エミリーちゃん」だそうである。私には、どこがお見事なのか理解できず、大統領自ら政治のパートナーと呼ぶロザリン夫人はともかく、エミリー嬢を外交使節とは認められず、却って不愉快に感じた。朝日新聞の「フジ三太郎」に、父親がテレビを見ながら家族に「考え違いをするなよ。日本で出張に家族を連れて行くと、即クビになる。」というのがあった。私は、カーター大統領の頭には「日本人は馬鹿で、サミットが開かれるという事実だけを大切にして、会議の内容などどうでもよく、サッチャー夫人は美人だ位のレベルでしか物事を考えられないだろう。ゆえに、ロザリンやエミリーを連れて行くと歓迎されるだろう。」ぐらいの考えがあったのではないかと思う。

下田での「市民との対話」は、カーター外交の中では大成功ではなかっただろうか。過日、EC報告に「日本人はウサギ小屋に住んでいる……」というのがあった。これを読んで腹をたてた人もかなりいると思うが、欧米諸国では、日本人が、まだ、チョンマゲをし、刀を持ち、前を横切ると切りつけるーだの、日本は中国の属国だくらいの知識しか持ち合わせていない人が多数いるのである。ただでさえ有色人種に対して偏見を持っているヨーロッパの、首脳にこそ本当の日本人の生活を見せるのが政府の仕事ではなかっただろうか。カーター大統領一家は、焼き鳥屋へ入るなど、割と日本人の生活等を見ているようだが、本当に日本人の生活を見てもらいたいヨーロッパの首脳は、会議の直前にやってきて会議が終わるとすぐ去って行く、いわゆるトンボ返りをしてしまった。

東京サミットが終了したいま、たとえ一時的にせよ世界中の眼が日本に集まったのであるから、これを足場にして政府は「ウサギ小屋云々」のような不当な扱いをされないように、正確な日本を世界各国に知らしめるべきではなかっただろうか。

ひとこと

覇気を望む

候補は、しなくても当選すると「いやだなあ。」と、言いながら、笑っている人がいるのは、どうしてだろう。他人の信頼が自分に寄せられた、その喜びと共に、本当はそんなに強い希望でなくてもやりたい気持ちを持っていて、それが実現した喜びきたいと思います。

覇気、人の上に出てやろうとする気持ち。広い意味で元気でも取ってもらいたい。土佐校生に今一番足らないものだと思う。

皆の代表として責任ある立場になり仕事をやる。例えばクラスの委員長、○○実行委員、最も大きい所で生徒会長。全て自らの立候補で構成されていない。推薦されてなかったものである。しかし立解っていても せいぜい小さな声で隣り近所の人とボソボソと話し合い、自分が一応解っていてバカでないって事を他人に示めす程度しかやっていない。

確かに自分の言った事が間違っていれば恥をかくかもしれない。と、いって黙っているのは余りにずる賢しいのではないだろうか。出る杭は打たれる。という言葉もあるがしかし、そんな事ではお互い意見を交換し合わないのでは、どんな事でも進展も盛り上りも見ないだろう。

今度の向陽祭のこと一つを取ってみても、先日行なわれた〝討論会〟に参加した一般生徒はわずか十数名しか数えなかったという。もし自分が向陽祭を毎年開催するのに賛成、または反対の意見を持っていたのなら討論に参加すべきではなかったのか。

皆がどんどん自己の考えを発表しなければならない。熟行部だけに任せきらないで、君が土佐校生なら土佐校の中の事で無関係なことはないはずだから。

(W・S)

小学校低学年の頃は先生が黒板へ書いた問題なんかの答えが解かると皆、われ先に手を上げ先生に指名されるのを待ったものである。それがごく自然の姿だった。手を上げない方が不自然で、よりおかしかった。今はどうかというと、たとえ答えが分かっていても、先日行なわれた〝討論会〟に参加した一般生徒はわずか十数名しか数えなかったという。もし自分が向陽祭を毎年開催するのに賛成、または反対の意見を持っていたのなら討論に参加すべきではなかったのか。

皆がどんどん自己の考えを発表しなければならない。熟行部だけに任せきらないで、君が土佐校生なら土佐校の中の事で無関係なことはないはずだから。

(W・S)

主要大学合格者数　5月現在

大学名	現	浪	計	大学名	現	浪	計
東京	4	4	8	慶応	21	16	37
京都	9	3	12	明治	10	14	24
高知	21	6	27	同志社	17	16	33
高知医科	10	10	20	立命館	13	15	28
早稲田	20	26	46	総計	405	339	744

情勢の理解を

省エネルギーに協力しょう

今、世界的に省エネルギーが叫ばれている。先頃行なわれた先進国首脳会議(東京サミット)でもこの問題が討議され、世界的なエネルギー対策が話し合われた。

わが国でも前々からエネルギー危機が問題となっており、各方面で検討されていたが、先月頃から具体的な対策が実施され始めている。

まず、一般的な節約として、冷房温度の調整がある。これは冷房を二十八度以下に下げない、というもので、官公庁を初め、各企業が協力している。その他にコピー機器の停止、マイカーの自粛などがある。

次に生産分野でのエネルギー節減は、電機事業の燃料転換及びエネルギー使用効率向上等々が、政府の指導により産業界を中心にかなり効果をあげている。

先に、六月六日、成立したエネルギーの使用の合理化に関する法案(省エネルギー法案)は、国際的エネルギー情勢が緊迫化、省エネルギー政策の必要性が高まっているため、本年度内に施行する必要があり、通産省は、各種の基準づくりなどの作業を急いでいる。

しかし、われわれ中高校生にはこのような中央の動きはほとんど関係ないといえるだろう。けれども、だからといって、一切、省エネルギーに協力しないというわけにはいかない。

まず、一番身近なことは不使用中の教室の電気は必ず消すということである。最近、校長先生のお言葉で、他の先生方もこの事についてやかましくいわれるようになった。しかし、まだ体育の時間中など電気を点けたままになっている事が多い。

それから、この夏場、冷房に入らない、という事を呼びかけたい。クーラー普及率がどんどん上がっているが、省エネルギーの立場から見ると、これはどうも好ましくない状況である。昔の人はクーラーなしですごしたのだから、今それができないことはないだろう。極力、クーラーのかかった部屋に入る事を避けてもらいたい。体にもよくないのだから。

その他、他の電機製品を不必要な時は使わないという事も意識してやってもらいたい。

水についても同じことがいえる。この夏は高知は大丈夫だが、全国に異常渇水である。新聞によれば、高知は日本一、水を使う県だそうだが、水があるかといっていくらでもムダに使うことはよくない。この事についても留意した方がいいだろう。

私たち中高校生が、もっと国や世界の情勢を理解して、積極的に意見を出し合い行動しなければならない時代が来た。

ぜひ省エネルギーに協力しょう。

こえ

身近から改革を

殆んど変らぬ10年前と今

先日過去の向陽新聞を読んでいて非常に驚いた。十二、三年昔のものだが、当時の学校生活と現在のそれに殆んど違いがない。五、六年前のもそうである。昼休みは食堂で〝野性の証明〟が展開され、休み時間は昼下がりの養老院といった感じで小数でたむろして、たまに大勢集まればガヤガヤ騒がしい。文化部は低迷で、先生方は〝勉強しろ〟と説教し、生徒自分の所属する学校の生徒)であるという事に対する、誇りや自信をもつためには、生徒手帳の証明は第一の条件ではないだろうか。これを機会に、もう一度生徒手帳の意義を考えていただきたい。

今から証明する人は、生徒部室に行って元吉先生か大原先生にことわって、大きい職員室の熊沢先生の所で証明を受けなければならない。

また、生徒手帳を破損・紛失した人も、生徒部室へ行って手帳を買い、新しく証明をうけなければならない。

七月初め、生徒部は、各クラス担任を通じてまだの人は早くするように言ったが、約半数の人しか証明していない。

低い生徒意識！

多い生徒手帳の未証明

ます、右の表を見ていただきたい。これは、六月二十九日現在の学年別生徒手帳未証明者数の表である。中・高合わせて四十六人もの人が未証明である。

高学年になるほど、生徒意識が薄れていくということがよくわかるが、高二に特に多いのはどういうわけだろうか。

生徒手帳の証明は四月いっぱいの間、毎日受付けていた。一学期の初めから数えて、約二十日の間である。それだけの時間がありながら証明しないというのは、よほど怠慢か無神経なのだろう。

新聞部内にも未証明の者がいて、六月末に証明に行ったが、生徒部室で元吉先生にさんざん怒られて帰ってきた。

もともと生徒手帳とは、自分が土佐中・高生であることを証明し、あらゆる時に、身分証明に役立つものであるが、映画などを見る時、中・高生である時を示すときも、手帳に写真さえ貼っておけば証明しているか、していないかというようなことはあまり注意されないので、証明することは無意味と考えがちである。しかし、自分が土佐校生(あるいは他校でも、議会はよく流会。土佐校生はこの十年何をしてきたんだろう、そう首をひねりたくなってくる。

良くも悪くもなっていない、十年間変化がなかった。(それも低いレベルで)このことは大いに反省すべき事ではないか。十年間変化が無かったという事は、この十年自分達の学校生活に、何の変革な加えなかったということだ。それぞれが自己の殻に閉じ込もって他人の事には無関心。いわゆるシラケがこの民凶だろう。このシラケタ雰囲気に土佐は十年以上も浸ってきた。たった十数部の新聞でこういうのは、いささかこじつけの感なきにもあらずだがボクはいま強くそう感じている。

共通一次でどの学校も自信をつけ、勉強の面ではシラケから脱け出そうとしている。ウロウロしていると進学の点でも○○校等に負けるかもしれない。勉強だけではない。自分や自分の回りの者のトローッと顔を見てると、この四何人が社会に出た時、熱心に仕事をやれる人間になるか。そう考えると自分の将来に不安を感じる。

なにはともあれ、今の土佐校生には自分の周囲を改革することが必要なのではないか。床に落ちているチリを始末するとか、生徒議員になってみるとか。

生徒会長になったり、満点とるほど勉強するとかいった大きな事でなくても、ささいな事でいいから自分を、自分の回りを、変えていくのが必要だと思う。難しいことだけどそれが自分や土佐校の為になる事だと思う。

ペンネーム――聖徳太子

編集後記

皆様がこの新聞を手にするのは何日頃でしょうか。楽しい夏休みが終った九月一日でしょう。八月十八日(一学期末テスト最終日)発行を目標にと努力しましたが部員三名ではやはり力不足でした。(一番足を引っぱったのは私でした。ハイ。)

一学期、二学期と今年発行しなければ来年の予算はいらん。と大見得を切った以上、一学期に出さなければいけないわけですが、一学期というのは生徒手帳によると八月三十一日まで。日付を御覧下さい。我々は一学期中に何とか発行できた事になります。(ウウッ赤面するほどセコイなあ。)

次回は二学期に、運動会と修学旅行を柱にして出したいと思っております。特に修学旅行の記事は、私めと新加入の高一のお嬢さん二名が担当の予定です。

(W・S)

ふるさとノート

現在、我国に一番近い国、韓国では、朴大統領が「北からの脅威」を理由に不当な言論の弾圧を行い、国民から自由を奪っている▼先頃、アメリカのカーター大統領が訪韓し、その際政治犯等の釈放を要求したそうである。その時一番最初に名前をあげられたのが、「民衆の声」「五賊」などで良く知られている反体制詩人金芝河(キム・ジハ)氏である。彼は、一九七四年四月二十五日に「民青学連事件」で逮捕され、一時釈放されていたが、現在は、再び獄中の人である▼もう一つ私の忘れることができない事件に「金大中事件」がある。時の韓国大統領候補金大中が、日本から極秘に連れ去られた事件である。今年五月に、アメリカ国務省から秘密公式文書が公開され、金大中氏誘拐は、韓国中央情報部(KCIA)によるものであると知らされた。ほとんどの人がやはりと思ったのではないだろうか。しかし、ここで問題なのは、この資料がアメリカからのものであるということだ、なぜ日本政府は、事実の解明に力を入れないのだろうか▼日本と韓国との結びつきは、決して浅いものではない。古くは秀吉の朝鮮出兵から、日韓併合による植民地化など、根強く複雑な関係を経てきているのだ。また現在、日本の企業は、労働力の安い韓国に進出して made in Korea の製品を大量に作り、政府は対韓援助を行っているのである。つまり、韓国に対して経済的な後楯となっているのだ。金芝河氏は、「日本の企業が物質的進出をやめ、日本と韓国の民衆が真の友好を結び、反独裁の為に共同戦線を張ろう。」と呼びかけている▼現在我々が韓国を理解するのは難しい。今も日本人には、朝鮮人に対する差別が深く根ざしている。戦争を知らず朝鮮人問題を良く知らない我々ですらそうである。在日朝鮮人作家李段直(イ・ウンジク)氏は、著書「朝鮮統一への胎動、三省堂」の中で「朝鮮人を連れて来た日本人が悪いのであって、連行された朝鮮人が悪いのではない。このような単純な善悪の判断が大部分の日本人にできないのは、学校教育の欠陥ではないか。」と述べている。日本になぜ朝鮮人が多いのか疑問も持った事のない我々にとって「単純な善悪の判断」以前の問題である▼不幸にも朝鮮は南北に分裂してしまった。同じ民族間の悲惨な戦争をなくすためにも我々一人一人が朝鮮問題に目を向け、良く考える必要があるのではないだろうか。

(K・I)

高知県眼科医師会指定店
――安心してお求め願える店――
メガネのカドタ
高知市帯屋町1丁目9－2
〒780　TEL (0888) 72－3096

皆様の帽子の店
土佐中・高指定
元田帽子店
高知市帯屋町2丁目　☎72－2591

●のびゆく川村チェーン
時計＊宝石
レコード＊
川村時計店
本社：高知市帯屋町2丁目1－28　☎22－0123(代)

好評!!　毎週土曜日
学割デー
勉強の効果をあげる学習用品いろいろ
山元文具
梅の辻(汐江スーパー前) TEL33－3101

日本で友人を！

留学生 フィリップ君答える

新聞部 インタービュー

今春より、土佐中学校にはるばるアラスカはアンカレッジより一人の留学生がやって来た。彼の名前は Philip・Fraser。本校にとっては久し振りの留学生である。彼は現在三B（竹村節先生）に入っており、授業は英語と数学の一部は三Bの仲間と受け、その他（剣道、柔道、工夫、音楽等）は別個に受けて受けているそうだ。

さて、緑がかった青い目や金髪が印象的に彼に我が新聞部はコンタクトし、先日、部室においてインタビューしたものを次に紹介してみる。

Q お歳は？
A 十四才。
Q 高知の街の 印象 はどうですか？
A おもしろい。
Q 土佐校生の 印象 はどうですか？
A アメリカよりもよい。
Q 土佐校の先生の印象は？
A おもしろい。（いったい、何がおもしろいのやらこちらにわからなかった。）
Q クラブは何処へ入っていますか？
A テニス部です。
Q 日本のスポーツで 好きな 物 陸は？
A 陸上です。（アラスカでは、陸上競技は何らかの理由でないのでしょうか？）
Q 食堂は使いますか。又、どんな物を食べますか？
A はい。使います。なんでもおいしいです。（その割には、ご飯は食べていないらしいとの情報に、次の質問）
Q 御飯はどうですか。又、ハシはどうですか？
A 御飯はダメです。ハシは何とか使えます。
Q 今まで（日本に来てから）一番こまった事は事は？
A 漢字。（やっぱり、話すのは身振り、手振りでわかるけど、漢字は外国人にとって驚異でしょうな。）
Q TVは見ますか？
A YES。
Q どんな物物を見ますか？
A ……。（返答が無いので、セサミ・ストリートは？と聞いたら、フィリップ君は笑いました。）
Q ラジオ（主に無線という意味で）に興味はありますか？
A 少し。……。（この後、フィリップ君は何やら手を動かし何かを表現していた。そして、英語を口走っているのだが、通訳がわからない。しばらくしてやっと〝ラジコン〟の事とかわり「ホッ。」としました。）
Q 今まで覚えた日本語は？
A おもしろい。サムライ。（この後、誌上に書けないような言葉を連発したフィリップ君三Bの生徒は、彼が日本語が理解できないと思って、日本語の悪い部分のみを教えているのではないかと心配したりして。）
Q 将来、何に なるつもりですか？
A 科学者。（ウッ。すごい。土佐校の中でこんなこと答えられる生徒はいるのでしょうか。）
Q 日本の伝統的文化で興味ある物は？
A サムライ。（ナッナント。サムライ。しかしサムライって、日本の伝統的文化に入るのかなあ。）その後、彼は言った。

「日本の便器は豚のエサ入れみたい。」

Q 何に乗って日本に来ましたか？（せこい質問じゃ。）
A 飛行機で七時間から九時間です。
Q 漫画を読みますか？
A NO。
Q 江川を知っていますか？ 王は？
A 一応二人とも知っています。しかし、王はアメリカでは有名でありません。
Q 何かゲームを 知っていますか？
A 碁、相撲、剣道、柔道、空手など。
Q 小使いはいくらほど持っていますか？
A ？（なにやら通じなかったみたい。）
Q 何か買物しますか？
A 英語の本。
Q 何を勉強しに来ましたか？
A 日本に友人を作るため。（ほんとに英語が通じたのかなあ。）
Q じゃあ今、友人は何人いますか？
A 全然いない。……しばらく考えて、たくさんいます。
Q 寂しくはないですか。
A 寂しくありません。
Q 何か欲しい ものは ありますか？
A 別にありません。
Q 寝る時間と起きる時間を教えて下さい。
A 九時から十一時までには寝て朝の六時半には起きます。

と、いう感じでフィリップ君へのインタビューは終ったわけですが。彼は私達が想像するアメリカ人の感じと違い、ものすごくおとなしく口数も少なかったので用意した質問の数が足らなくなり困りました。（もっとも、こちらが込み入った事を聞かなかったので彼はあっさり答えたのかもしれません。）

また彼は我々の質問の合間に、碁石を「ンー。キャンディ。」と言いながら食べる真似をするなどなかなかの茶目っ気を見せてくれた。皆も彼を見かけたら気軽に話しかけてみよう。

（インタビュアー・G）

私の留学先の米国サウス・ダコタ州は、北アメリカ大陸のド真中、気候変化も激し、冬はマイナス30°C から、夏は40°C まで、雪はあまり多くなく、深い所でも一・五メートル足らずでした。雨も一年で百五十ミリくらいで、私が持って行ったカサもレインブーツも使わずじまいでした。そんな中での主産業は、牧畜、肉牛、乳牛、ブタなどがいましたが、私のホストファミリーは、ハーフォードという種類の肉牛の放牧をしていました。他にも小麦、ひまわり、とうもろこし畑もあり、ひまわりの種は、ピーナツのように、人間も食べていました。

サウス・ダコタ州は、真中でミズーリ川によってプレーンとプレーリーとに分けられていますが、両方とも大平原で、山などなく、平らな土地に、立派な舗装道路が遠々と真っ直ぐにのびており、丘のような所からはその真っ直ぐな道が20キロ以上見わたせ、その地平線の所まで行っても、また先は真っ直ぐな道が 続いていました。

学校は、10年生 のクラスに 入り、毎日スクールバスで、朝夕一時間以上かかって通いました。それも時速80キロくらいで走って、もちろん信号待ちも無しで行くのですから、広さが わかるで しょう。朝7時半ごろバスに乗るのですが、冬などは、まだ星がきれいに見えたりしました。一度虹も見ましたが、夕方で太陽が低かったので、きれいな半円が見えました。そういえば、日出、日没は、冬至のころが 8時すぎと5時ごろ、夏至のころは4時ごろと、9時半ごろで、6月30日に花火をしたときは、10時半ごろから始めました。

食べ物も気になりますが、朝食は、コーンフレークや、ウィート（小麦）フレーク、オートミールなどに牛乳と砂糖をかけて簡単にすませ、昼は学校の食堂で、おばさんやアルバイトの学生とが入れてくれる（自分のきらいな物は取らなくてよかったり、個数のあるものは、何個とか言って入れてもらう）おぼんのようなひと続きになったお皿で 友だちと一緒に 食べ、夜は、牧場のこともあって、毎晩ちがった種類のステーキや、ハンバーグなど、子供もお肉を食べないと、しかられていました。牛乳も家で取れたのがいっぱいあり、飲まないとしかられていましたが、子供は牛乳ぎらい、肉ぎらいがほとんでした。

私のホストファミリーは、両親と子供が十三人（うち七人が家にこっている）日曜に教会に行く時は、大きな車に全員が（私を入れて10人）乗って行きます。日本の車には5人しか乗れないと言ったらビックリして、前にはもっと大きな車を持っていたそうです。

学校は、幼稚園から高3まで同じ所で、全部で二百五十人位、ハイスクールと呼ばれるのは9年生から12年生までの四年間で、それだけだと百人位でした。科目は一人五科目取ればよく、一日七時限なので他の時間はブラスバンド、コーラス、スタディホール（自習）がありました。私は、英語、生物、保体（後期はドライバーズエデュケーションに変わった）、メカニカルドローイング、家庭科、それに、バンドとコーラスを取りました。授業は、科目によって教室がちがい、62分授業、間の3分間の休みも移動だけで終わってしまいます。授業中は、私語も多く、先生をからかったり、先生を尊敬するということはなく、きらいな先生には反抗し、好きな先生とは、反だちのようなつき合いをしていました。勉強も、日本のように予習、復習などせず、テスト前にノート（5ページくらい）を覚えておけば満点も取れました。でも宿題は全部提出しなくてはいけないので一生懸命やりました。

小さい学校なので、クラブ活動もあまりなく、バスケットボール、フットボール、陸上競技、野球、ソフトボールしかなく、練習のある時は交代で車を運転して帰宅していました。車も14才から運転でき、高校生でも自分の車を持っている人が大勢いました。試合の時はバスで一時間から二ノ三時間かかる所へも行き、チアリーダーのリードで応援合戦も楽しかったです。私はバンドにも入っていたので、バスケットやフットボールのハーフタイムなどに演奏もしました。

さて、他にも馬に乗ったり牛の世話をしたり、旅行や様々な事がありましたが、枚数の関係で全部書ききれません。もっと詳しく知りたい人、アメリカ、カナダに興味のある人、英語が好きな人などは、私たちの話を聞くなり、自分で経験して来てほしいと思います。場所によって経験できる事は様々ですが、一年間 日本 から出て、日本の良さ、悪さを新発見できたり、自立心が養なわれたり、良い事が沢山あります。興味のある方は私や、持導部の扇谷先生の所に相談に来ていただけば良いと思います。

校内短信

☆…黄金週間前日の土曜日、四月二十八日、県民文化ホール・オレンジホールで本校ブラスバンド部が第十四回のスプリング・コンサートを行なった。当日はクラスマッチの最終日でまた明日から連休ということもあり、開門前の五時頃にはホール前に人が並び、開演時には座席に座れない人も出るほどの盛況ぶり。

演奏内容も県内他校と較べ随一で、アトラクションとしてプロレスやテレビドラマのスチール写真なども写され、終始熱気に満ちていた。途中、現在高2の幹部十五名の紹介や、他校からの花束贈呈などがあり、宮本寛君の軽妙な司会などで、なごやかなムードだった。

この演奏会は一部、二部に分かれており、一部はクラシックで、前半はブラスバンド顧問の松尾功禄先生、後半は同部OBの現在高3久方田晋君の指揮で行なわれ、「木星」・「展覧会の絵」が静粛なムードで演奏された。二部はポピュラーで、指揮 は 久方 田君。「大追跡のテーマ」、「アクエリアス」、「キャラバン」等の曲を見事に演奏した。終わったあともアンコールを求める 拍手 が 鳴りまま す、「YOUNGMAN」、「君はバラより美しい」そして、「アクエリアス」が演奏され、終わった。

閉演後の松尾先生談「観客がたくさん入ってくれた。もう最高だ。準備が早くから充分にできたので、内容も充実していた。」

☆…「有名大学の有名先生の話を全国の高校生に聞いてもらおう」というので、全国的に行なわれている文化講演会が、本校でも五月十四日、体育館で行なわれた。

土佐高校に来て下さった先生は成城大学教授で文学博士の西山松之助先生。

この催しは集英社の主催で全国的に行なわれているが、今回は本校の順番になったもの。高知新聞社と二ツ橋文芸教育振興会。講演に先だって曽我部校長、福田高新常務取締役（氏は本校の三十六回生である）、酒井集英社編集長のお話があり、西山先生の紹介などがなされた。

「江戸の名人」という題で講演された西山先生は、兵庫赤穂のご出身で、東京文理科大を 卒 業され、東京教育大名誉教授を経て、現在、成城大学におられる。著書も多数（中央文庫・NHKブックス、角川新書その他）で、江戸文学、江戸人の特徴などについて研究されている。趣味も多く、何事にもたけているそうだ。「江戸の名人」という講演は一時間強にわたって行なわれ、あらゆる方向の特に歌舞伎や能の名人についての話があった。

講演後、先生はすぐ帰られたので、インタビューはできなかったが、「やさしいおじ（い）さん」といった感じの人だった。

第14回スプリング・コンサートで頑張る

判る日本の良さ悪さ

学校へ スクールバス 一時間以上

留学の思い出——西森礼子

新人3先生の紹介

◇—インタビュー出席簿—◇

今年四月から当校に先生一年生として御活躍中の先生方に少々遅れてしまったが御登場願った。

以下は先日、部員のインタビューへの新任先生方の御答である。

注①氏名②生年月日③学歴④在校時（土佐中・高）と現在の生徒の違い⑤生徒への希望⑥学生時代おもしろかったこと⑦自慢できること⑧趣味

先づ、レディー・ファースト

秋田先生

①秋田佳子
②昭和?年1月9日／
③名古屋大学・文学部（ナント学部こそ違え、C先生の後輩です。）
⑤思いやりのある人になって欲しい⑥高校の時の文化祭・体育祭⑦料理⑧美術観賞、特に中世バルビゾン派の絵（バルビゾン派については西川先生にでも聞いて見て下さい。）

※秋田先生を全く知らない人へ

・顔　特に例えるタレントはいないが、無理に例えると竹下景子をベースに名取裕子を加え、仕上げに渡辺真知子の?を付ける。と、いった感じです。（写真参照）

・性格　筆者は習っていないからわからないがやさしそう。

さて、次はなかなかしぶい男。

片岡先生

①片岡一道
②昭和30年9月9日
③京都大学・理学部④そんなに違いはない⑤勉強時間をふやそう⑥酒を飲んだこと⑦小学校一年生の時、使っていた筆箱を持っている事（？。省エネ時代に表彰ものですなあ。あなたはまだ持ってますか）⑧レコード観賞

※片岡先生を全く知らない人へ

・顔　太く濃い眉がりりしく決まって、時代劇で侍の役なんかが似合いそうです。

・なんといっても最大の特徴は、あの私達にとって余りにも strange な文字です。あの一昔前の文字をどうして書くか。その理由をひながなを例にして簡単に書くと、

「戦後、文字を発音通りに直そうという事で、〝合はせる〟の〝は〟を〝わ〟に変えるという作業が行なわれた。しかし〝私は〟の〝は〟は〝は〟のままにされた。だから〝合わせる〟と書くのは理論的に言っておかしいから〝合はせる〟と今でも書くのが正しい。」

と、いう事らしくて何だかわかるようなわからないような感じです。（なお、あのむづかしい漢字は一年間で覚えたそうです。）

最後は中一のアイドル的存在

①広井護
②昭和29年4月27日
③早稲田大学国文学科④しらけている⑤シラーというのをやめてもらいたい。⑥卒業生関東・関西酒飲み合戦で東の横綱になった。

（他にも未確認、つまり話してはくれなかったが大学の時、ヨーロッパへ行って×××映画を見たとか。）⑧唯ひたすら煙草を吸うこと。

※広井先生を知らない人へ

・顔　強いて例えればゴダイゴのタケカワユキヒデの髪を短かくして、十年歳取った感じ。

広井先生

・性格　極めて温好といった感じで、早くも中一の人気の的になりつつあるようです。（子供に人気があるのは善人の証拠ですね。）

以上ですが、三人とも個性豊かな先生のようでこれから楽しみです。まア顔の事に関しては筆者の主観丸出して、全く当てつない感じです。（枚数が足らないため、書きました。どうぞ写真をみて各自判断して下さい。）

若くて美人の秋田先生、必殺漢字の片岡先生、そして放課後、生徒といっしょに鏡川でボート遊びなんかをして、先生というより、中一の同級生といった感じの広井先生。末長く土佐校で頑張って下さい。

（G）

向陽祭の開催へ！

もっと皆の協力を

執行部の面々が第五回向陽祭を来年、一九八〇年の二月に開催しようとやっきになっているようである。が、高三は「どうせ卒業後の事で関係ない。」高一は「どうせもう一回絶対やれる。」と思っているかどうか定かではないが、全然盛り上がりを見ていない。明らかに執行部の空回りである。しかし執行部ばかりを責めるわけにはいかない。執行部の基盤であるはずの高二内部でも「向陽祭はやりたくない。」という考えの人がかなりいるようだ。

私は向陽祭は是非一年に一回やるべきだと考えている。よって反対派の心中はよくわからないが、考えるに彼等は〝HEROに成りそこなった人〟なのではないだろうか。向陽祭をやりたくない。どうして、向陽祭はつまらないから……。本当に向陽祭はつまらなかったのか。彼等は向陽祭を楽しもうと思ったが楽しめなかったのである。メリットよりもめんどくさいというデメリットがはるかに比重を占めているのであろう。

〝楽しくない向陽祭〟が言われ始めて久しいが、第四回はコーラの早飲みや、のど自慢等、新趣向が織り込まれ、マンネリ脱出の兆が見えて来た。が、のど自慢は〝さくら的存在〟の音楽部員が出場者の殆んどだったと聞く。まだまだ土佐校生はおとなしすぎるのだ。

さて、ではどうすれば皆が楽しめる事ができるか。勿論、各自のやる気が必要だが、やはり前記したような新趣向が必要なようだ。（執行部の面々は理屈ばかり言っているようだが、それでは生徒の乗り気を誘いにくい。もっと具体案を出してもらいたい ものである。）例えば、のど自慢だがやはりソロでやるとなるとかなりの度胸がいるし、専門的にやっている人のみの場所になる恐れもある。そこで〝クラブ対抗歌合戦〟とか言うふうにしてみてはいかがだろう。向陽祭の協調性という面を見てもやはりグループで出た方が意義があるように思う。又、中止とはなったが〝校内征断ウルトラクイズ（日本テレビ・ウルトラクイズ〟の本校盤）なども新鮮味があっておもしろそうである。

それから、これは向陽祭のカーニバル的要素を考えての話だが、クラブやクラス単位でコスチュームを作り、その服装なら校内は自由に行きできる。という案はどうだろう。これはそうする事により仲間の和を固めしかも、外部者に自分達を強くアピールできるという利点があり、費用面なら考慮し是非検討してもらいたい。

最後に高二の諸君は自分達を軸として向陽祭開催を必死になって運動してもらいたい。かなり時間的にも現状はきびしくなっているが、やれなくてもともと。〝生徒の一念先生倒す〟ぐらいの気持ちで頑張って見ようではないか。

（W・S）

本校強化指定 選手ら決まる

本年度の全国高校総合体育大会は、この夏休み、滋賀県下で行なわれ、本校からも多数選手が参加するが、来年度、五十五年度の高校総体は四国各県で行なわれる。高知県ではこの大会で好成績を収めるため、このほど十八競技について強化指定校、強化指定選手（計七百四十一人）を決定、発表した。

本校からも、多数選ばれ、強化計画に参加する。本校の指定団体、個人は次のとおり。

団体・剣道部、バドミントン部、ハンドボール部、庭球部（いずれも男子のみ）

個人・自転車競技　小谷裕輔、池田敏夫、浜田健史、宮村一郎。
軟式庭球　吉村一志、三浦健司、杉本和彦、原雅彦。
バドミントン（女子）　籠尾康江、野島薫、上田恵子、高野薫。

先生 出番です

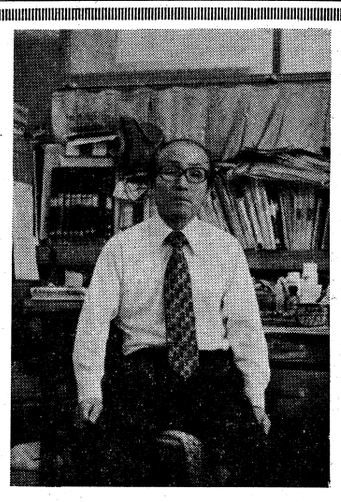
小松博行先生

Jack of all trades, and master of none.

松浦先生と大嶋前校長に拾われて、私が母校に帰って来たのは、昭和二十二年の四月である。爾来三十二星霜、概ね「あわせて一人前」という教壇生活を送ってきたと言えよう。新聞部長がきて、「先生出番です」というので、その辺のことを書こうと思う。

（終戦後、家に籠っていた私を、遊ばせておくのも勿体ないという親しい小学校の先生の好意で、小学四年生の勉強相手を七ケ月務めた事と、軍隊時代、見習士官になってもずっと兵隊さんと起居を共にしていていたという事実が、試験官の心証をよくしたのか、教職適格審査は無事パスしていた。）

はじめは、中一の社会科という新設の教科と中二の漢文を持つことになった。新制の高三にも何かノート持参で喋っていたような気がする。哲学の話をしている処へ校長がはいってきて、若干やりにくかった記憶があるから。



社会科というのは「鵺的存在」だと大先輩の漢文の先生が言われ、また多少そんなところもあった。東京出張の折、安倍能成先生を訪れて「社会科」に就いて伺ってみると、自然科学概論というのも、はじめはっきりしない存在だったのが次第に定着したから、その中社会科も判然するだろう—とのお話だったので、そんなものかと少し安心したりしたものである。

漢文は、恩師の国見米太郎先生が教頭で 御在職 中 だったので、生徒の頃、割合勉強したその御褒美(?)のようなものだったと思う。勿論これも、教える為の勉強をした訳ではないから、所詮素人である。教科書を一通り読んでおいては、「性善説性悪説」などの話をしたりした。

その中、国語を持たされるようになった。何時からかはっきりしないが、この方は、文芸部の雑誌「筆山」に「一つの流」という随筆風のものを連載していたが、高知大学のある先生の眼にとまり、それが縁で「国語にして何か書きます」と答えた。どういう心算か傍にいた国漢の先生が、ソウデス、ソウデスと頻に相槌を打ってくれた一幕もあった。

宮沢俊義著「民主主義—上・下」を使って社会科をやったのもこの頃である。上がいやに厚く下が割に薄い特徴的な教科書で、殆ど読んで行くだけだった。本の量もさることながら、こちらに勉強が ないからである。最近、小松先生に民主主義を習ったんだから頑張らなくっちゃ—というH・Aという卒業生がいることを人間した。斯ういうのがいると少し嬉しく、大変こわくなる。

ある時はまた、多分持時間調節にだろうが、持たされたのが中学の日本史であり地理であった。歴史もそうだが、殊に地理には往生した。どちらも余程の達者でないと相手がしにくい。地理のある時間、落語の助けをかりて、畳は 貧乏の ボロ ボロ（畳は備後の五分縁で）とやっていると、曽我部校長が巡視にこられ、廊下から顔を出して（入れて?）一紹に笑って下さった。なごやかな想い出である。

ある年、世界文学史と称するものをやる破目になったのは何の故だろう。その遠因も近因もわからない。そもそもこんな科目が可能かどうかもわからないが、まさか、ゲーテの世界文学論に関する論争があったようだからという訳でもあるまい。

次に、そして恐らく最後に、倫理社会がくる。これは大変なものである。心理学と社会学とそして哲学倫理の各分野を含んでいるからである。旧制高校で概論をやり、大学の選択でそれぞれ少しずつ聴講したぐらいではーとても。しかし少くとも当時は、あまり引受け手がなかったから、それなら「あわせて一人前」一人間がついでに恥をかいてやろうと引受けて、盲蛇で今日に至っている。ある人が「一番倫社らしからぬ人が倫社をやる」と子供らしい評をしたものだが——。

事のついでにクラブ顧問のことに触れる。文芸、新聞、剣道、バドミントンまた新聞、とこれまたそこはかとなき遍歴である。これも一ツの「あわせて一人前」であろうか。

これによりてこれを観るに、私の本領は、あれこれあわせて一人分にあり、またそう見做されてきたようである。それかあらぬか、今も私は三種類併せて十八制間。部長クラスで十八時間は私だけであり、誰もこれを怪しまない。そしてこれからも、こういう調子で時は流れて行くであろう。

時は静かに流れて行く。

あわせて一人前

中華料理
龍園
高知市梅ノ辻5—29番地
電話 ㉛ 1170番

明文堂
はりまや橋・ニューコウチビル西端
TEL ㉒6395～6
瀬戸・ショッピングセンター
TEL ㊷ 5556
ハイパープ・ラザ高須
TEL ㊹ 3924

本校制服指定店
入文学院
●男子専科　●ガールズ入文
南帯屋町通り　本町（電車通り）
TEL (73) 1101

信用あるお店で安心したお買物を
通学用かばん・旅行用かばん
かばんの専門店
マエダ
高知・オビヤ町1丁目　TEL 23—5600（代）